



彌生が丘小学校

コミュニティ・スクールだより

令和5年度 第6号

令和5年11月22日

発行：鳥栖市立彌生が丘小学校

学校運営協議会

鳥栖でも戦争がありました

牛島啓爾さん（87歳）を講師として招き、78年前に経験した戦争中の生活の様子や、鳥栖空襲の話をしていただきました。この講演は、本校学校運営協議会の交流・体験部の取り組みの一環で、長崎市へ修学旅行に行く6年生が平和についての事前学習として、講演を聞きました。

貴重なお話を聞くことができ、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考える機会となったと思います。

牛島さんは、当時の様子を絵手紙として書き記されており、一枚一枚紹介しながら戦争中の生活についてお話をしていただきました。

絵手紙の中には、駅で軍へ行く父を見送る様子や、竹やりの訓練をする様子などが記されていました。



昭和20年（1945年）8月11日、10時30分頃から飛行機が3機飛んできました。

当時小学校3年生の夏休みで、生後5か月の弟を背負い、田んぼで作業をしている母の所へ授乳をしてもらいに連れて行っていました。

その時、空襲警報が鳴り、近くの溝に隠れました。とても怖かったです。

母が上から覆いかぶさり、「3人ここで死んだらしょうがないね」と言ったことを覚えています。



鳥栖市生涯学習課の方からは、戦争当時の防空頭巾やラップ、千人針などを展示していただき、貴重な実物を見ることが出来ました。



6年生の感想

戦争の残酷さがよく分かった。
世界から戦争をなくしたいと思った。
何かできることから始めたい。

すごく悲しくなって、涙が出てきそうだった。
戦争がなくなって、誰もが幸せと思えるような
世界にしたい。



今起きている戦争について、より実感がわいた。

全員が自由に生活できるような社会になってほしい。

